

QScan 2023.3.1 Release Notes

ビジュアル・グラフィックス株式会社

バグフィックスおよび改善点.....	2
既知の問題・制限事項	3

お問い合わせ：

ビジュアル・グラフィックス株式会社

テクニカルサポート部

電話：03-6277-1895（サポート直通）

E-mail：qscan@vgi.co.jp

 **Visual Graphics Inc.**

バグフィックスおよび改善点

- PDF レポートのステータスに「レポート」と表示される問題の修正
- 「設定」ページのシステムのクリーンアップ機能において、日数指定の削除時に表示されるダイアログボックスで「YES」または「NO」をクリックしてもボックスが自動的に閉じない問題の修正
- HDR のフォーマットチェックがビデオとオーディオの両方のストリームでレポートされる問題の修正：イベントカウントが重複して表示される問題が残っています
- Gamut Check のイベントがレポートで適切に表示されない問題の修正。HTML および PDF レポートでイベントが表示されるようになりました。また、メッセージ内容をより明確にするために以下のように変更しました。
 - XXXX カラースペース外のピクセルが存在する
 - すべてのピクセルは XXXX カラースペース内
- システムのクリーンアップが一時停止中のプロジェクト内に適用されない問題の修正：プロジェクトが一時停止のステータスであっても分析結果が削除されるようになりました。
- API の修正：API 経由でプロジェクトを作成する場合、ファイル分析の有効期限を設定する属性の情報がありませんでした。このリリースより新しい属性が <http://localhost:8080/swagger/API> で表示されます。この属性は日数（秒単位）で指定する必要があります。
- 部分分析において、ファイルの開始 TC+尺長の範囲を超えて分析の開始 TC を指定した場合に HTML と PDF レポートで TC の範囲外であるメッセージが表示されるように改善。UI 上のステータスも分析エラーとして表示されるようになりました。
- XML、JSON レポート、または API コール後にフォーマットチェックが重複して表示される問題の修正。イベントは 1 回だけ表示されます。
- フォーマットチェックのピクセル形式で正しい結果が得られない問題の修正。ピクセル形式が正しく設定されている場合でも、誤検知が発生していました。
- ライセンスの無効化を実行する際に誤ったメッセージが表示される問題の修正
- プロジェクト設定の「入力/出力」でファイルの移動が設定され、かつ「PDF レポートを保存」のチェックボックスを有効にしている場合、PDF がファイルと同じ場所にコピーされない問題の修正
- HTML レポートが変更された場合（イベントの削除または編集）、プロジェクトの出力設定で指定された保存場所に PDF レポートが更新されるように改善
- ウォッチフォルダーが入力として指定されている場合、システムのクリーンアップの削除後にもイベントカウントが残る問題の修正：すべての分析が削除されると、イベントもゼロにリセットされます。
- 閾値内で「停止」と「移動」のアクションを設定している場合にも、PDF レポートが出力フォルダ内へ保存されるように改善

既知の問題・制限事項

- ラウドネス分析オフセットの値が設定済みの状態でテンプレートを結合でロードしてプロジェクトを保存すると、LOUDNESS分析オフセットの値がデフォルト（空欄）に戻る（回避方法：プロジェクトの保存後にLOUDNESS分析オフセットの値を改めて入力し、プロジェクトを保存する）
- プロジェクト設定内のデータの有効期限（日数）の経過後、分析データの削除後にもウォッチフォルダにファイルが残っている場合に再分析が実行される
- ユーザーにより手動で削除されたデータがシステムのクリーンアップの削除対象にならない
- HTML レポートにおいてファイル属性（フレームレートおよびアスペクト比）の表示が不適切である
- ビデオの詳細ページでデッドピクセルマーカーが表示されない
- 詳細ページのタイムラインでファイルの末尾部分が表示されない（回避方法：タイムラインをズーム表示する）
- 閾値設定時にカスタムのメッセージを入力後、深刻度などを変更するとデフォルトのメッセージに戻る
- Offset を使用した部分分析で、ビデオ/オーディオ詳細のタイムラインの開始 TC にファイルの先頭フレームの TC が表示される
- 音声の閾値の区間設定において from tail と duration の組み合わせで指定するとイベントの開始 TC と尺長が正しくない
- 音声の分析項目のみが有効に設定されたテンプレートを使用してオーディオとビデオを含むファイルを分析すると、一部の音声イベントの尺長が正しく表示されない場合がある
- PDF レポートにおいて、一部のフォーマットチェックで情報が表示されない問題が存在する。
注）メタデータ内で情報が見つからないことが原因で一部が表示されないことがあります
 - クローズドキャプションのフォーマットチェックが、フォーマットチェック内に表示されず、閾値のエリアにイベントが表示されないことがある（情報がメタデータに含まれておらず、追加の処理が必要になるため）※PDF レポートのフォーマット一覧でクローズドキャプション「ARIB STD-B37」が表示されない件がこれに該当します。
 - 「GOP」が閾値に従ってハイライト表示されない
- チャンクベース分析で MXF セグメントを有効にしてマルチパートファイルを分析すると不一致が検出されることがある。（これらの不一致は主にデッドピクセルの検出に関係しており、現在のアルゴリズムが計算に大量のフレームを必要とすることが原因）
- IMF パッケージの PDF レポートにおいて、音声イベントのサムネイルは表示されません。（音声のみを含むファイルであり、映像のサムネイルを伴わないため）

	Timecode In	Duration	Message	Scale
4	00:00:00:00(0)	00:00:10:13(263)	Loudness I out of -24 LUFS and -22.1 LUFS	1

LOUDNESS EVENTS [DPP_TOUR19_IMP_03_AUDIO_8.MXF] END

- ラウドネス分析オフセットを指定すると、LOUDNESSイベントの開始 TC が 1 フレーム前倒しで表示される
- 部分分析の使用時、分析された尺長よりもイベントの継続時間が長い場合、レポートにおいてイベントの尺長が 1 フレーム長く表示される

- 整数でないフレームレートのファイルで、音声イベントの尺長のカウントが ± 1 フレームの誤差が発生する場合があります
- 部分分析において、ドロップフレーム TC のファイル进行分析する場合、イベントの継続時間に不一致が発生する可能性があります (+1 フレーム)。これは主にドロップフレームが発生する尺長を使用する場合に見られます。つまり、1 分、2 分、3 分といった尺長を使用する場合には、00:01:00;02、00:02:00;02、00:03:00;02 として表現する必要があります。

以前のバージョンの QScan(2021.x 以前)で分析されたファイルを操作する場合、一部の機能が期待どおりに動作しない場合があります。すべての機能が正しく動作するように、ファイルを再分析することをお勧めします。特にタイムコードに関連するもの(TC へのジャンプ、目視イベント、タイムラインの TC 表示など)が影響を受けます。これは、データベースで新しい TC の処理方法が使用されることによるものです。